

令和6年度高岡市歴史まちづくり協議会 議事録

**開催概要**

■日時 令和7年2月18日(火)10:00～11:15

■場所 高岡市役所 802会議室

■出席者 協議会委員 12名

事務局 19名(高岡市、高岡市教育委員会)

(なお、事務局として景観みどり課、文化財保護活用課のほか、事業担当課として未来課、企画課、産業企画課、商業雇用課、観光交流課、地域振興交流課、文化国際課、都市計画課、土木維持課、道路整備課、学校教育課が出席した。)

**委員等名簿**

	氏名	役職等	出欠等	備考
1	上野 幸夫	職藝学院学院長	出席	
2	奥 敬一	富山大学芸術文化学系教授	出席	
3	古池 嘉和	名古屋学院大学教授	出席	オンライン
4	萩野 紀一郎	富山大学芸術文化学系准教授	出席	オンライン
5	長谷川 孝徳	元北陸大学教授	出席	会長
6	林 暁	富山大学 学長特別補佐	出席	
7	根上 幹雄	富山県土木部都市計画課長	代理出席	亀谷課長補佐
8	上島 克幸	富山県農林水産部農村振興課長	出席	
9	辻 ゆかり	富山県教育委員会生涯学習・文化財室長	代理出席	松井主任
10	式庄 寿人	高岡市産業振興部長	出席	
11	村上 彰	高岡市教育委員会事務局教育次長	出席	
12	赤阪 忠良	高岡市都市創造部長	出席	

**会議次第**

- 1 高岡市歴史まちづくり計画の変更について
- 2 高岡市歴史まちづくり計画進行管理・評価について
- 3 今後のスケジュールについて
- 4 その他報告

**審議結果**

審議案件1、2、3、4について、了承された。

## 質疑

### ○高岡市歴史まちづくり計画の変更について

- 委員:資料1のp7「どこでもステージ事業」について、支援事業名称に新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金とあるが現在も活用されているのか。活用していないなら削除となるのではないか。
- 事務局:新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金の活用は令和3年度から4年度で終了し、令和5年度からは市単独事業となっており、修正対応したい。
- 委員:資料1のp5「県道岡笹川線道路整備事業」に関して、福岡の町並みについては重要伝統的建造物群保存地区に選定されるのが望ましい。伝統的建造物の現状や修景事業の進捗についてはどのような状況であるか。
- 事務局:町並み全体の60%ほどが伝統建造物として現存している。今年度は2件の修景事業を実施した。全体で1%ほど進捗した。
- 委員:県道岡笹川線の無電柱化の取組みについてはどのような状況はであるか。
- 事務局:現在、電柱のカラー化を実施しており、今後も電柱のカラー化を進めることとしている。

### ○高岡市歴史まちづくり計画の進行管理・評価について

- 委員:資料2のp6「菅笠保全対策事業」について、新聞報道もあったが、過去5年間で3つの営農組合がスゲの生産を取りやめている。これは、スゲの栽培工程のうち、田起こし以外のほとんどが手作業であるため、高齢化、人手不足の中で継続が困難になったことが起因しているとみられる。富山県では「中山間地域保全パートナーシップ推進事業」を推進しており、人材をマッチングして紹介できるような支援も可能である。ぜひ検討していただきたい。
- 事務局:先日、富山県伝統的工芸品産業振興協議会において伝統工芸文化継承・産業振興プログラムが策定されたところ。この会議でもスゲ生産の減少が話題となり、深刻な課題であると受け止めている。現在、保存会、生産組合、振興会の3団体や後継者育成講座受講生が試験田でのスゲの栽培体験を実施するなど減少に歯止めをかける取組みを実施している。なお、富山県の事業については、要件があれば活用を検討するとともに、今後とも伝統産業支援課や農林水産部においては、ご支援願いたい。
- 委員:福岡のスゲは、伊勢神宮の式年遷宮など、全国の伝統行事で使われているため、スゲ生産の減少は全国規模の影響が懸念される。減少に歯止めをかける必要がある。
- 委員:「菅笠保全対策事業」について、進捗しているとあるが、進捗しているというのは厳しいのではないか。スゲ田の試験田はこれまでも実施されてきた。減少に歯止めをかけるためには、労力を減らすため機械化していくことが必要であると考えている。現在の試験田は機械化に向けた技術を検証するためのものであるか。
- 事務局:「菅笠保全対策事業」について、後継者育成事業については順調に進捗しているが、材料となるスゲの生産の面では大きな課題であると認識している。試験田については現在のところ、スゲの栽培体験を目的として実施していると同時に、栽培に係る労働時間などコストも計算するものである。
- 委員:資料2のp6「高岡御車山保存修理事業」について、有形文化財の修理事業は大変な苦労がある。喫緊の課題としては修理を担う人の高齢化であり、人材育成が必要である。また、「高岡御車山保存修理事業」では大規模な車輪の修理が完了したため、修理事業が小規模化すると修理を担う人の生業が途切れることになり、技術者、職人等の離散に繋がりがかねない。ぜひとも支援をお願いしたい。

- 委員:全国的に文化財の保存修理・修復に携わる人材の確保は喫緊の課題である。保存修理・修復事業は生業として成立するものでなくてはならない。また、技術者・職人だけではなく、修理道具や原材料の生産者についても生業として成立しなければ保存修理・修復事業が成り立たなくなってしまう。
- 委員:資料2のp35「文化財の修理(整備)に関する具体的な計画」に関して、伏木地区にある高岡商工会議所伏木支所、棚田家住宅、谷村家住宅については液状化による被害が深刻で存続が危ぶまれている。所有者に対して支援をお願いしたい。
- 事務局:市内町家等再生事業の補助金など支援メニューを案内している。引き続き所有者に対する支援を継続していきたい。
- 委員:資料2のp12「コミュニティ助成事業」について、地域祭礼で使用する道具の修理・購入に対する補助は重要なことであると認識している。修理に関して、道具は文化財として指定されているものではないが、文化財的価値を損なう修理内容になっていないか留意する必要がある。また、海外製の安価な道具を購入することもいかなものかと思っている。
- 委員:資料4には高岡城跡の本丸土橋の災害対応について掲載があるが資料2の評価シートについても災害対応を記載する必要があるのではないかと。災害対応によって計画の進捗に影響がでていることなども見えてくるのではないかと。
- 事務局:評価シートに災害対応についても記載を検討させていただく。
- 委員:資料2のp34「文化財の保存・活用の現況と今後の具体的な計画」について、文化財の保存・活用を進めていく上で文化財保存活用地域計画の策定は重要であると考えているが、策定に向けた取り組みは。
- 事務局:令和7年7月の認定を目指して取り組んでいるところである。
- 委員:文化財の修理について、3Dスキャンなどデジタルデータの活用も有効であると考えている。現在、資料やデータを求めており、今後、市と連携するなど協力できたらいいと考えている。
- 委員:資料2のp41「各種団体の状況及び今後の体制整備の具体的な計画」について、風致維持向上計画と文化財保存活用地域計画の整合性を図る必要がある。特に、未指定の文化財についても配慮が必要で、例えば、菅田も市場原理に委ねるだけでなく、未指定の文化的景観として保護が必要である。

#### ○今後のスケジュールについて

特に意見なし

#### ○その他報告

- 委員:2007年の能登半島地震の被害を受けた土蔵の修復に携わったが、土蔵の修理を担える職人の不足が課題である。土蔵の修理事業の実施の際は、将来のために修理の工程や修理状況の記録を公開してアピールしていただきたい。
- 委員:全国的に大工、特に左官職人の不足が深刻である。左官職人は、左官工事の合間に現代工法の現場に従事するなど兼業しなければ生活できない状況である。また、資料には工期についての記載があるが柔軟な対応をお願いしたい。
- 委員:土蔵の土壁の崩落は、土壁が地震の揺れを吸収した結果であり、土蔵の倒壊を免れる役割を果たしたとみている。しかし、構造躯体が経年劣化すると倒壊の危険性が増すため、土壁の修理と併せ

て構造躯体の修理をする必要がある。また、左官職人の育成は難しい点がある。例えば、修理と新築では工法が異なるため、新築工法を学んだ後に修理工法も学ぶ必要がある。このほか、工法に関して地域性が大きいことも課題となっている。

以 上